四国

敬行寺発行

1 新しい年を迎えてお念仏
2 勿体ない念仏に起き念仏に寝る
3 愧しや慾で起きては色で寝る
4 寒風を凌ぐ香りの梅の花
5 仕方ない蒔いた種なら生えるもの
6 徒らに歳を重ねて南無阿彌陀
7 大難が小難ですむ南無阿彌陀
8 無常とは定めなき世の定めなり
9 称えなん此の世の終りかも知れぬ
10 吾々は嘘偽りが真実なり

11 熱心に聞く人々は菩薩なり
2 生きたくば色と慾とを慎しめよ
3 愧しや又鐘が鳴る水がつく
4 満ち足りぬ心に曇る不足なければ
5 南無阿彌陀今日も事なく暮れにけり
6 お計らい善いも悪いも寝るも起きるも
7 恐ろしや因果は廻る火の車
8 貧しくて何はなくてもお念仏
9 覚めて見よ渡る世間に鬼はない
20 憎めない彼等も親の一人子ぞ

21 今日も無事諸行無常の鐘を聞く

2 嬉しさよ唯嬉しさよ嬉しさよ

3 母恋し御法の中に声を聞く

4 開発は喜びの中の喜びだ

5 春を待て泣くな歎くな悲しむな

7 露の世と知りつゝ慾を走らせる

8 名の如く香りを放て福寿草

8 胃が悪いそうではなくて口が原因

8 他人が悪いそうではなくて身の罪だ

30 蒔けば生え蒔かねば生えぬ自然なり

31 愚痴つくな自分の業を晒してる

2 世の中は因果業報の展示会

3 世の人が活劇演ずる社会劇

4 他人の悪見て喜ぶは悪人なり

5 他人の善見て喜ぶは随喜善

6 天道は自然のまゝに蹉跌なし（くいちがい）

7 無理するな極悪非道で孫が泣く

8 不思議なり唯一声も響流十方

9 西東立つも坐るも恩の中

40 不思議とはわしが仏になることだ

41 浮世なり弘誓の舟に乗りて渡れよ
2 定めなき世と知りつゝもあてにする
3 そらごとの中に開けるお念仏
4 限りなく光り輝く宝とは（無上宝珠）
5 やをよろず護りたまふかやをよろず
6 面白い有為転変の妙波瀾
7 苦しみを苦しみと見て苦しめり
8 門松に遠ざかりつゝ近づけり（死）
9 延びて行く子供を見つゝ枯れて行く
50 幾重にも御恩蒙る今日の一日

51 広大の恩をもあだに返しつゝ
2 人は人我は仏を相手にし
3 今日も亦楽しく語る南無阿弥陀
4 幸福を得たくば拝め阿弥陀仏
5 感謝せよ矯るなぶるな怠るな
6 波風も唯一筋に乗り切らん
7 足り過ぎて不足の中に余りあり
8 こりゃ不思議無一物中無尽蔵
9 この歓喜三千世界に唯一人
60 異安心真似の出来ないいゝ安心

61 よいみ法極悪最下が有難い
2 見て御座る真如の月が見て御座る
3 聞いている久遠の親が聞いている
4 ああああ波を蹴立て日は過ぎる
5 知っている三世貫く親がいる
6 異安心無安心より有難い
7 機にあきれ法に呆れて丸他力
8 満ち足りぬ信一念の大功徳
9 あいすまぬ嬉し愧しこの境地
70 ふまれても根強く忍べ福寿草

71 仏物を粗末にしたか生活苦
2 不具に後家お寺の中は阿修羅道
3 教界に石を投じて波紋（破門）まつ
4 屍は叩いて見ても眼は覚めぬ
5 唯一人専修専念やり抜くぞ
6 天上の月のまんまが水の月
7 堕ちる機と助くる法は一つなり
（機法一体）
8 呆れたり名利のとりことも知らで
9 黒鉄の門より堅い信の開発
80 聞く一つ三祗百代一飛びに

81 あゝ不思議彌陀の利剣の鮮かさ
2 照されて真実なき身が真実なり
3 恐ろしや無力と他力よく似てる
4 合点は易きが中になお易し
5 開発は難きが中になお難し
6 三仏を生かすも殺すも我が心
7 猛悪が御恩喜ぶ種となる
8 浮世とはあてになる事ない事だ
9 寝て起きて何の苦もないそれが極楽
90 真の慈悲明らかに聞け諦らかに

91 八万の法蔵の鍵胸にあり
2 進まなん我行精進忍終不悔
3 静かなり不退の風航あら楽し
4 開発は広大難思の大慶喜
5 合点した素直な人に歓喜なし
6 死後を見て喜ぶ人に懺悔なし
7 素晴らしい元祖高祖もみな破門
8 面白い破門をされて無碍自在
9 今の今苦海慈航が有難い
100 八方の攻撃の中に立ち上り

101 本当だ寺売りましょうと坊主投げ
2 四苦八苦無信の坊主あわておる
3 法施なく祖師を売り物買手なし
4 信がない苦毒は行者の身に満てり
5 信有れば三世十方皆報土
6 信の力世の荒波を乗り越えて
7 あら不思議猛火の中に蓮華が咲き
8 有って泣く無くて泣くのが世の習い
9 ばたつくな栄枯盛衰会者定離
110 色光は何時とはなしの救いなり

111 心光は一念大利無上なり
2 覚めよ人法がないから徳がない
3 嫉妬して怨み呪えば身の破滅
4 口開けば人を謗って身を讃める
5 分け行かんその儘来いの声をたよりに
6 そら出たぞ地震雷火事洪水
7 そらごとぞ唯念仏にしくぞなき
8 崩るゝぞ調子合わした建立の心
（合点した信）
9 塵程も間に合わぬ身が間に合うた
（本願に）
120 御恩とは御恩を御恩と知る心

121 大自然月あり花あり泉あり
2 八万の法蔵開く信の一念
3 何故だろう算用合うて銭足らず
4 足り過ぎて算用合わぬ不思議哉
5 お恵みに唯感謝する南無阿彌陀
6 人の世は唯慎しめよ色と慾
7 財宝も亦皆空し消えて行く
8 血迷うな愛慾栄華亦空し
9 影を追い影に苦しみ影に泣く
130 限りなき大悲の風に打ち任せ

131 智慧と慈悲悲智円満の大功徳
2 光陰は矢よりも早し二十四時
3 皆人よ心静かにみ名称え
4 縁にふれ竜巻のごと舞い上がる
5 有難や恩を恩と知る親の恩
6 有難や天地の恵み親の恩
7 我身こそ最第一の果報なり
8 夢の夢花の盛りも過ぎにけり
9 名利さえ持って越されぬ死出の旅
140 浮世とは狂い通しの世の中だ

141 浮世とはあてにならぬをあてにする
2 祖師憶う苦難の道に光りあり
3 覚めよ人業を荷うて消えて行く
4 あら不思議業のまにまにお念仏
5 ど性根に見えつ隠れつ智慧と慈悲
6 満ち足りぬ智慧と慈悲との親心
7 如意宝珠神通自在の我が心
8 万山の群を抜いたる冨士の山
9 諸人の群を抜いたか異安心
150 あら不思議法を見てよし機でもよし

151 親鸞は信一念の異安心
2 法竜も信一念の異安心
3 合点を他力廻向と誤れり
4 最高峯異安心こそ目出度けれ
5 異安心人に謗られ仏に讃められ
6 法と機が一になって異安心（いゝ安心）
7 八方の攻撃の中にっこりと
8 息をつく大音宣布にいとまなし
9 機を見れば嬉し愧かしよい御法
160 不断光無明の闇を照らしつゝ

161 満ち足りぬ溢れる宝無尽蔵
2 不思議なり仰ぐみ法に招く財宝
3 徳積めば財の影法師ついて来る
4 不思議なり微妙の音声さゝやけり
5 夢中なり色と慾とに身を忘れ
6 安らかに浮世のまゝに散って行く
7 面白い栄枯盛衰会者定離
8 今日も亦鉦を叩いて南無阿彌陀
9 渦の中御恩尊や有難や
170 判らない唯恋しさに南無阿彌陀

171 三悪の火坑遁れて南無阿彌陀
2 照されて愧らいつゝも業作る
3 三毒もたゞさらさらとさらさらと
4 面白い御恩思えば苦にならぬ
5 満月も三日月もあり人の世も
6 貪るな怒り狂うな愚痴つくな
7 平等の一味の味は海の徳
8 帰しぬれば善悪浄穢なかりけり
9 竜天も護り給うかよい天気
180 限りなき恆沙の功徳身に満つる

181 順逆も共に喜ぶ嬉しさよ
2 計ろうて計らいつきて計らわれ
3 こりゃうまい食うて見なされ信の味
4 疑うて疑いぬけて丸他力
5 機を見るな包む心が皆自力
6 よし悪しで往生きめる自力心
7 とやかくと計らう心自力心
8 素直にと真似る心が自力心
9 成程と思い堅める自力心
190 異安心正々堂々宣布する

191 酒飲んで遊惰に耽る無安心
2 開座して人に聞かすも菩薩なり
3 人の世の万古不易も滅びけり
4 浮き沈み我身の業と知らずして
5 子は親の業に輪を掛け親泣かす
6 怨みつゝ呪い合いつゝ沈み行く
7 安かりし今日の一日の有難さ
8 恐ろしや口を開けば謗法か
9 睡りても火の車だけ燃えている
200 雨と降る無常の弾を今日遁れ